

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191600036		
法人名	(株)アイランドジー・アイ		
事業所名	アイランドジー・アイ小田グループホーム		
所在地	岐阜県瑞浪市北小田町285		
自己評価作成日	令和5年1月11日	評価結果市町村受理日	令和5年4月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/i/index.php?act=on_kouhyou_detail_022_kani=true&i_gyosyoCd=2191600036-00&SerViceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市橋町1丁目3番地
訪問調査日	令和5年2月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍にあり今年も外出が思うように出来ない中グループホーム内でのレクリエーションを企画し力を入れています。季節ごとの行事を行い、四季を感じて頂けるように計画し、おやつ・昼食作りも企画しています。午前中リハビリ体操・ラジオ体操も行い下肢筋力の維持につとめ、運動を行っています。フロア内・居室のお掃除、食器洗い・片付けなど積極的に行って下されます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者は、職員に「心に余裕を持って笑顔で接し、利用者、家族との信頼関係を築くこと」の大事さを伝えています。朝食の時間に幅を持たせて利用者の起きた時間に合わせたり、利用前の生活パターンを家族に聞いて同じように過ごしていただけるように支援したり利用者のペースを大切にしている。利用者の知人や遠方の家族、同級生がアルバムを持って急に来所された時でも玄関先で面会できるように配慮している。管理者は、夜勤や日常の業務内容について職員から出された課題を話し合って改善している。職員が楽しまないと利用者も楽しめないと考え、レクリエーションやタオル運動など職員の意見やアイデアを大切にして取り組んでいる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域社会との交流が保たれることを目的として、積極的に地域へ出かけるよう目標設定しているが、コロナ禍により参加可能者は皆無であった。	管理者は、職員とのコミュニケーションを大切にして「利用者一人ひとりの思いを大切に温かく見守る」ことを根気強く伝えている。職員は利用者のペースで楽しく笑顔で過ごせるように支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な交流としては、散歩中の挨拶・年中行事として地域の秋祭り、正月の初詣、夏祭りへの参加などありますが、コロナ禍により殆ど出来ていません。	利用者と一緒に散歩に出掛けて地域の方と挨拶を交わしている。近所の方より花や野菜をいただくこともある。事業所近くに住む職員や元職員が橋渡し役となり地域とのつながりを少しずつ広げている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホームへの関心を持って頂けるようにしていきます。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	本年度は3回実施し、2月末に4回目を予定しています。	定期的に書面で開催し事業所の現状や活動を報告している。管理者は会議の資料を委員に手渡して説明し意見を聞いている。議事録を作成しているが玄関先の設置や家族や地域への公表に取り組みしていない。	事業所の取り組みや運営推進会議の内容を知っていただくためにも広く公表できるように取り組んで欲しい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	状況に変化があれば、連絡するように心掛けています。	事故報告書や運営推進会議の資料を持って行った時に事業所の現状を報告し意見を聞いている。市主催の会議に出席した時や地域包括支援センターの職員が認定調査に事業所を訪問した時に情報を交換している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の回避の努力を常に心がけている。身体拘束・虐待に対する勉強会は実施している。	契約時に事業所の方針を家族に説明している。定期的に委員会や研修会を行っている。会議において身体拘束の具体的な事例を挙げて職員間で話し合っている。職員が疑問に思う時は申し送りなどで話し合っている。管理者は声の掛け方など気になる時は声を掛けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	存在しないよう常時意識している。採用時研修及び勉強会でも取り上げている。		

アイランドジー・アイ小田グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要の利用者やご家族に成年後見制度の紹介が可能な程度の知識は持っているし、必要時には支援できる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	丁寧に行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱・苦情受付は窓口を設けている。意見を頂ければ検討する姿勢がある。	家族の来訪時や電話で利用者の状況を伝えて意見や要望を聞いている。誕生会の写真に職員が一言を添えて送っている。家族から利用者の生活歴を聞いてケアに取り入れることで利用者の表情が良くなり落ち着いて生活を送っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、リーダー会議・全体会議・勉強会がある。	管理者は職員が楽しまないと利用者も楽しむことは出来ないとタオル運動やレクリエーションなど職員のアイデアを取り入れている。夜勤や日常の業務内容について職員から課題が提案されて話し合って改善している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	実施出来ている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全体会議・リーダー会議を通してトレーニングを行っている。また、外部の研修はその都度案内している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在は、行っていない。		

アイランドジー・アイ小田グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入時は、特に意識して情報収集に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	導入時には特に注意して必要な情報収集・交換に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所審査段階において注意深く検討をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご家族の気持ちになり、施設ではなく生活を送るご自宅の様に支援しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様の気持ちを知り、家族様と共に支援しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所への外出・友人の訪問を歓迎している。今年もコロナ禍により制限をしています。	利用者の遠方の家族や知人の方、同級生がアルバムを持って突然来所されても玄関先で面会できるように配慮している。利用者から馴染みの散髪屋に行きたいと言われたため家族に伝えて出掛けている方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士良い関係が、保てるように支援をしています。		

アイランドジー・アイ小田グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	内容にもよるが、求められれば相談にのる姿勢はある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々努めています。	リビングでゆったりと過ごしている時に利用者の思いを聞いている。茶碗拭きや洗濯物たたみなど作業を行いながら聞くこともある。利用者の表情やしぐさに変化がある時は職員から声を掛けて思いを聞いている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々努めています。	家族の来所時や電話で利用者の状況を伝えて計画に対する要望を聞いている。利用者の担当職員がモニタリングを行っている。家族や医師の意向を踏まえて職員間で話し合い職員の意見やアイデアを反映した計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な限り対応していきたいと思っています。		

アイランドジー・アイ小田グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日々努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望を確認しながら支援しています。訪問看護・訪問診療も取り入れている。	従前のかかりつけ医の受診は家族が同行している。利用者の状態を口頭で家族に伝えて結果を確認している。家族の都合が悪い場合や利用者の状態により家族の対応が難しい場合は職員が同行して結果を家族に伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当然のことで日々努力している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	事前には出来ていないが、入院した際には密に連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重症化・終末期の場合、ご家族様の希望も考慮しますが、誤解のない適切なタイミングで説明も実施しています。	契約時に事業所の方針を家族に伝えている。状態の変化に伴い早い段階から家族の意向を確認している。終末期に家族から面会や宿泊の希望があれば受け入れている。看護職員が医師と連携し家族の意向に添えるように取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期訓練をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に訓練をしている。地域との協力体制は出来ていませんが、訓練への参加もある。	夜間想定を含めて年2回避難訓練を行っている。事業所が2階にあるため災害時の避難方法について職員間で話し合っている。近所の方に協力を依頼して訓練等への協力が得られている。水や食糧、ガスコンロ、ボンベなど備蓄し職員に周知している。	

アイランドジー・アイ小田グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	重要事項として認識し、対応している。	管理者は利用者のペースや気持ちを大切に した言動が大切と伝えている。失禁された場 合は他の利用者に気付かれて利用者が傷付 けないような対応を心掛けているが、居室の ドアに小窓があり廊下から見えるようになっ ている。	利用者の中には小窓に折り紙を作っ て貼っている方もいる。利用者の思い に配慮してプライバシーについて職員 間で話し合っていて欲しい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自 己決定できるように働きかけている	出来る限り実施している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのよう に過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の日課を決めているが、その中 で一人一人のペースを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう に支援している	日々努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備 や食事、片付けをしている	能力的に可能な方には、参加して頂いて います。	朝食の時間に幅を持たせて利用者が起きて きた時間に合わせている。利用者は盛付や 茶碗拭きなど出来ることを手伝っている。デリ バリーでピザを注文したり散らし寿司や巻き 寿司と一緒に作ったりして楽しめるように工 夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に 応じた支援をしている	日々努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケ アをしている	日々努めている。		

アイランドジー・アイ小田グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々努めている。	排泄パターンを把握して昼夜ともトイレに誘導している。立位が困難な方は二人で介助して誘導している。家族から布パンツで過ごせるように夜間もトイレに誘導して欲しいと要望あり、職員間で話し合いながら取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便記録にて、その方に合わせて排便のコントロールを行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	頻度や時間は日課として決めさせてもらっていますが、内容は個々に沿ったものになっています。	湯温や入浴時間、同性介助など利用者の要望に合わせている。要介護の高い方にも湯に浸かって欲しいと思い併設事業所の機械浴で入浴している。職員は柚湯や菖蒲湯、歌や思い出話など楽しみながら入浴できるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人お一人の体調や状況に応じて対応しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	日々努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々努めている。	コロナ禍前は食事や買い物、墓参りなど利用者の希望に合わせて職員と一緒に出掛けていた。桜や紅葉など季節毎のドライブや事業所近くの神社に初詣に出掛けている。急に外出を希望される場合は職員と一緒に散歩に出掛けている。	

アイランドジー・アイ小田グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍により外出(お買い物)の機会もなく今は、対応していない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら求められる方はいないが、必要時には対応していきます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	努力しています。	リビング入口に職員が手作りした季節のタペストリーと雛飾りが飾られている。食堂には利用者の笑顔の写真をフレームに入れて飾ったり、家族からいただいた花を飾ったりして家庭的な雰囲気である。職員は温湿度や換気に配慮しながら快適に過ごせるように支援している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	限られたスペースの中で、思い思いの場所で過ごす事が出来ている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力を得ながら出来る限り行っていると思います。	チェストやテーブル、椅子など使い慣れた物を持ち込んでいる。家族と相談して家具等の配置を決めている。化粧道具が居室に置いてあり入浴後にリップを塗っている。家族の遺影を飾り毎日手を合わせる方や定刻にラジオを聞いている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の自立度に合わせ、出来る事を出来る限り行って頂けるように心掛けています。		